

ウシオの今と未来をお伝えする

第44期報告書
(2006年4月1日~2007年3月31日)
2007年7月発行

ウシオ電機株式会社

P ▲ R ▲ I ▲ S ▲ M

株主・投資家の皆さまへ

光のものがたり

光の処方箋。

~ 医療を変える 新しい光 ~

「光」テクノロジー&フロンティア

光医療の最前線から

未来は「光」でおもしろくなる

USHIO

PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。

第44期報告書 CONTENTS

| | |
|----------------|----|
| 光のものがたり | 1 |
| 光テクノロジー&フロンティア | 3 |
| ごあいさつ | 6 |
| 事業別の概況 | 8 |
| エレクトロニクス分野 | 8 |
| 映像・画像分野 | 9 |
| OA機器分野 | 10 |
| 照明分野 | 11 |
| 社会の中のウシオ | 12 |
| 第44期の事業概況 | 13 |
| 数字で見るウシオ | 14 |
| 連結決算 | 15 |
| 株式の状況 | 17 |
| 会社概要 | 18 |

光のものがたり

医療と光

光の波長には、紫外線・可視光(目に見える光)・赤外線があり、それぞれ「化学反応エネルギー」「あかり」「熱エネルギー」として医療分野でも活用されています。例えば「あかり」として血液や臓器を正確に色別するための手術灯、赤外線を利用したレーザーメスなど、数々の光技術が医療をサポートしています。そしていま、さらに精微で洗練された「光」を治療・検査に活用する研究が活発に進められています。

光の処方箋。

～医療を変える 新しい光～

手術をするか、薬で治すか、それとも・・・

さまざまな選択肢がある現代の医療現場では

「光エネルギー」が大きな注目を集め、

医療に新しい変化をもたらそうとしています。

光がエネルギーとして活用されはじめてから、

わずか50年あまり。

何十億年も前から、地球上のあらゆる生命を

育んできた「光」には、

まだまだ私たちが解明できない

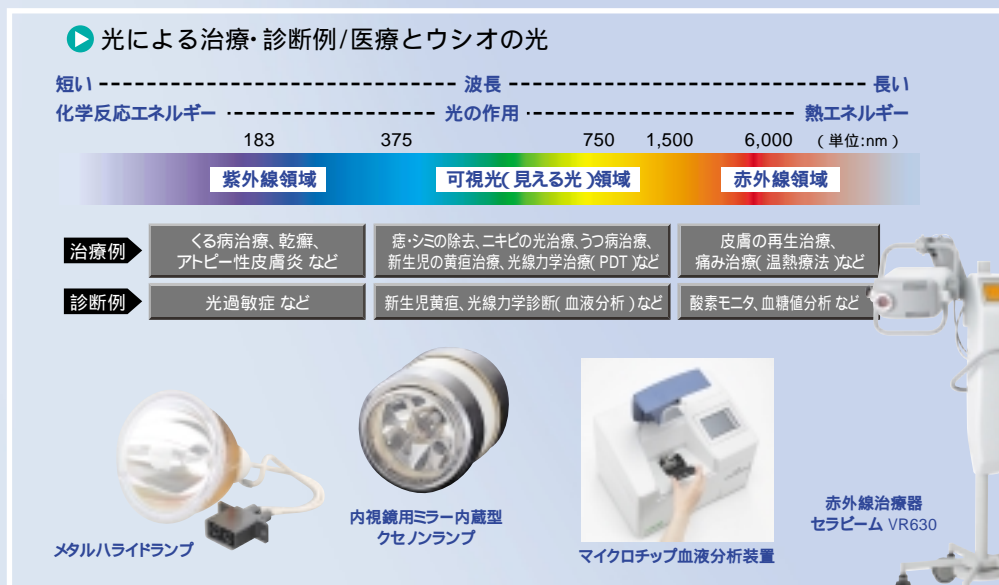
神秘的な力が潜んでいるようです。

先進医療を支える光技術

波長が長く、物質の中まで透過する性質を持つ「赤外線」は、患部を温めて治療や症状の緩和を行う「温熱療法」や「皮膚の再生治療」に活用されています。一方、波長が短い「紫外線」は、強いエネルギーによる化学反応を利用した皮膚疾患の治療や殺菌などで大きな効果をあげています。さらに最近では、“切らずに”ガン細胞を死滅させる「光線力学治療(PDT)」や、病巣に光をあて、薬と反応した癌細胞のみを発見・診断する「光線力学診断(PDD)」の研究も

進んでいます。

紫外線は人体に弊害がある一方で、免疫力を高めたり、精神安定に欠かせない体内物質「メラトニン」の生成を促進させたり、カルシウムの吸収をよくする「ビタミンD」をつくりだすなど、私たちにとって有用な光でもあります。人体に影響を及ぼさず、治療に効果のある光のみをつくりだす光技術があってはじめて、光による治療・検査が可能になるのです。



キーワードはQOL(クオリティ・オブ・ライフ)

光治療は、従来の手術や投薬に比べ、痛みや副作用が少なく、身体へのダメージも抑えられます。そのため、患者の生活に大きな影響を与えることが少なく、いわゆる「充実した質の高い生活:クオリティ・オブ・ライフ(QOL)」を実現する治療として注目を集めています。また、“病気になるないため”の

健康管理や予防に活用する研究も進められています。

内視鏡用ランプで高いシェアを占めているウシオは、さらなる医療の進展にともない、最先端の光技術を活かした、新しい医療・検査機器の開発に取り組んでいます。

光医療の最前線から

現代の医療は、できるだけ痛みや副作用を抑え、身体の機能を温存する「クオリティ・オブ・ライフ(QOL)」の向上がテーマとなっています。一昔前なら外科手術しか方法がなかった症例でも、光・放射線・熱などを利用して患者の負担を抑えながら治療できるケースが増えてきました。

光で不治難病が治った!?

ランプの光を使った医療の研究がはじまったのは19世紀末。年間の日照時間が少なく、くる病に悩む人が大勢いた北欧で、街灯の下で暮らしていたホームレスが自然治癒したことがきっかけでした。デンマークのN.フィンゼンは、カーボンアーク灯を使って結核性の皮膚病を治療し、ノーベル医学生理学賞を受賞したことで光線治療は世界的に広まりました。

その後も研究は進み、現在では紫外線、可視光線、赤外線を活用し、皮膚疾患、アレルギー疾患、潰瘍や炎症、骨疾患、さらにはうつ病などの治療に利用されています。

ウシオは、医療におけるQOL向上を目指し、専門医師や研究者と協同で、光をエネルギーとして用いる光線力学診断・治療装置の研究開発を進めています。

レーザー治療とランプ治療の違い

これまでガンなどの治療用装置の光源には、主にレーザーが使われてきました。ビームの細いレーザーは内臓など局所的な診断・治療には適しているものの、皮膚がんのように広い面積には対応が難しく、装置も大型で高度な専門技術が必要でした。それらの問題を解決するため、ウシオは簡便な装置で広い照射範囲を実現するランプによる光治療の研究開発を進めています。

ガンにおける

PDD(光線力学診断:Photo dynamic diagnosis)と
PDT(光線力学治療:Photo dynamic therapy)

腫瘍にのみ反応する光感受性物質を投与後、病巣に波長390～410nmの光をあてガン細胞のみを発光させて判断するのがPDD(光線力学診断)。さらに、その発光したガン細胞のみを波長600～800nmの光によって破壊するのがPDT(光線力学治療)。光の化学反応エネルギーを利用し、“切らずに”ガン細胞を死滅させるため、従来の手術や投薬に比べ痛みや副作用が少なく、臓器の温存が可能なことから、QOLを高める診断・治療法として注目を集めています。

QOLに着目して赤外線治療器を開発

光線力学診断・治療で重要なのは、医学的に効果が高い波長のみならず光エネルギーを集中させた専用ランプの開発です。ウシオは、世界トップレベルの光技術を結集し、治療用として特に効果の高いとされる赤外線領域の波長630nmと670nmにエネルギーのピークをもつ専用の「メタルハライドランプ」を開発。同時に、このランプを搭載した赤外線治療器「セラビームVR630」の開発をすすめ、薬事承認を取得し、2006年秋から販売を開始しました。

さらに現在、「セラビームVR630」をベースにPDDおよびPDT兼用の装置を開発、治療臨床を進め、薬事承認に向け研究中です。



セラビームVR630の照射部(赤い部分)
高精度な光学系の採用で健常部位への余分な照射が避けられ、ターゲットである患部をピンポイントで治療できます。



セラビーム VR630

研究者と技術者の 熱意が生んだ紫外線治療

紫外線領域でも、皮膚疾患の治療を行う最先端の光線治療装置の研究開発を進めています。紫外線は、くる病治療だけでなく、乾癬、アトピー性皮膚炎などの治療に効果があります。しかし、これまでの医療現場では紫外線の弊害を懸念し、その活用が敬遠されがちでした。

ウシオは、余分な紫外線をフィルターでカットし、治療に効果があり、副作用のない、ごく限られた特定の波長のみを取り出すことで、治療効率の高い紫外線を研究開発しています。さらに、これまでの研究の結果、その治療効率の高い光とは紫外線領域の中でも300~310nm前後の波長だということが分かっています。ウシオは20年ほど前、波長308nmの単波長のみを照射する「エキシマランプ」を世界ではじめて製品化しています。その基盤技術を駆使し、紫外線による

治療装置を光線治療の第一人者である名古屋市立大学の森田教授と共同で開発、臨床評価を進めています。

注目を集める光医療の分野に 高い技術で貢献

少子高齢化社会を迎えて、医療は、病気予防や、早期診断・治療、早期社会復帰など、QOLの向上がますます重要視されています。今後、光による診断や治療が大きな役割を果たすにつれて、より緻密でピュアな光が求められるようになり、医療と光技術の融合はますます加速していきます。

ウシオはこれからも、赤外線から可視光線、紫外線にわたる幅広い光の技術をもとに、医療現場とも密接に連携して、QOLを高める医療用機器の研究開発を積極的に進めていきます。

ウシオの高い光技術と医療分野への理解に期待

1990年代から紫外線による皮膚疾患の診断・治療研究に取り組んできましたが、当時は社会的に紫外線に対する弊害が強調されていて、1995年頃から臨床研究が停滞していました。

そこで、有害性の高い波長域、治療効果の高い波長域を解明し、治療効果の高い波長を効率よく利用するとともに、症例・症状にあわせて安全かつ効果的に照射する治療方法を研究してきました。現在、これまで困難とされてきた白斑や乾癬の治療で劇的な成果をあげています。

このような成果は、ランプや装置メーカーの協力なくして成り立ちません。今回、ウシオ電機のような光の専門メーカーが医療用装置の研究開発を行っていることは画期的なことと評価しています。

今、光医療はQOL向上につながる最新医療として、若い医療関係者を中心に世界中で大きな関心を集めています。そのチャレンジングなプロジェクトに、光の分野で世界的な技術と実績をもつウシオ電機が加わることに大きな期待を寄せています。(談)



名古屋市立大学大学院
医学研究科 加齢・環境皮膚科学
森田 明理 教授(医学博士)

株主の皆さまへ

代表取締役社長・CEO 菅田 史朗

株主の皆さまには、日頃より格別のご支援ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。第44期(2007年3月期)の概況とともに、2007年4月に公表した「中期ビジョン」の重点事業戦略を中心に、企業価値増大に向けた今後の取り組みをご紹介します。



好調な市場を背景に5期連続増収・増益を達成

第44期は、液晶関連業界や電子部品業界でのデジタル化や、映像情報の拡大を背景とした旺盛な需要に支えられ、比較的好調に推移しました。

ウシオグループの主要製品では、液晶・半導体製造用の露光用ランプのリプレイス需要が堅調に推移し、液晶パネル生産用の紫外線硬化装置や露光装置なども着実に成果をあげました。また、半導体の高密度化に応えるエキシマレーザーは、需要の高まりから、大きく業績を伸ばしました。このほか、映像・画像事業においては、データプロジェクタ用ランプの販売数量も比較的好調に推移し、とりわけ、デジタルシネマ映写機については、当グループが北米を中心に展開してきた「デジタルシネマ普及促進プログラム」が浸透し、業績に大きく寄与しました。

グループ全体として新技術・新製品の開発、生産性向上とコスト低減、海外展開強化などを積極的に進めた結果、2007年3月期の連結売上高は1,515億円(前期比17.2%増)、営業利益197億円(同6.6%増)、経常利益251億円

(同8.4%増)、当期純利益166億円(同11.1%増)となり、売上高、経常利益、当期純利益については過去最高を達成しました。

また配当金については、4円増配して1株につき24円とし、連結配当性向は20%となりました。当グループでは、今後も株主の皆さまへの利益還元を最重要課題の一つと認識し取り組んでまいります。

2010年に向けた「中期ビジョン」を策定

ウシオグループは、2004年度から3か年の「中期ビジョン」を策定し、毎年、事業環境を踏まえた戦略の見直しを行いながら、ビジョン達成に向け目標を設定しています。2007年4月公表の「中期ビジョン」では、最終年度の2010年3月期に売上高1,900億円、営業利益285億円、ROE(株主資本利益率)10%以上を目標としています。

「中期ビジョン」の重点事業戦略項目については次ページのような状況です。

デジタルシネマ事業の普及促進と収益拡大

映画の本場である米国に加えて、今後は日本・欧州・アジア市場においても、映像情報文化の拡大に貢献していきます。

ソリューションビジネスの拡大

播磨事業所の共同実験設備などを活用したユーザーとのコラボレーションにより、新たな価値創出をめざすサービスを強化していきます。

データプロジェクタ用ランプのシェア再拡大

価格競争力の強化、高輝度化等の市場ニーズに迅速に対応しながら、さらなるシェアの拡大をめざしていきます。

液晶・半導体製造を支える製品の拡充

液晶パネルの大型化や半導体メモリの需要拡大に応える新製品の開発を進めていきます。

最先端露光事業(EUV 極端紫外光)の開発強化

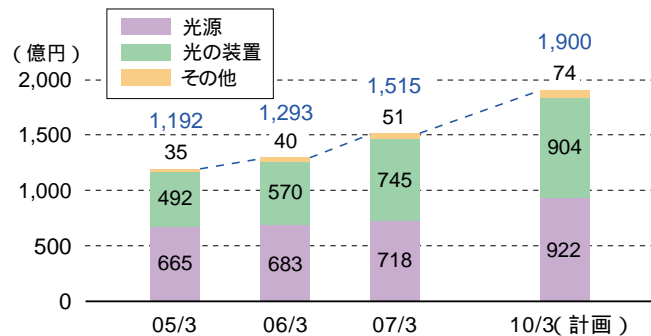
次世代半導体のキーテクノロジーとなるEUV光源の開発を着実に進めていきます。

新製品・新分野の早期事業化

生活・医療・環境など「クオリティ・オブ・ライフ(充実した質の高い生活)」につながる分野に注力し、引き続き診断装置や検査・分析装置の製品化をめざしていきます。また、今後の事業の核となりうる新光源開発にも注力していきます。

また、これらの戦略を推進する人材の育成についても高度な専門知識を習得する教育・研修と、グローバル規模での管理者養成にいっそう力を入れていきます。

中期ビジョン(製品別売上高推移)



グループ全体で再編を行い、最適地生産を目指す

今後の事業環境については、長期金利の上昇や為替レートの企業経営への影響、原油・原材料の価格高騰など不透明な要素がありますが、全般的には緩やかな拡大基調が想定されます。

ウシオグループとしては、品質を重視しつつ一段と開発・生産・販売効率の向上とコスト低減に取り組み、グループ全体で生産と販売を考慮した最適地生産を行い、シェアの拡大と利益の極大化をめざします。

同時に、経営の透明性と効率性を確保し、環境負荷低減など社会的責任にも積極的に対応し、株主の皆さまをはじめステークホルダーのご期待に応えて、企業価値の増大と持続的な成長に努めていきたいと考えています。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともいっそうのご理解とご支援を、心からよろしくお願い申し上げます。

2007年6月吉日

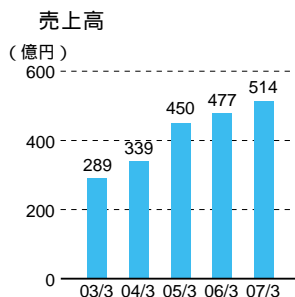
エレクトロニクス分野

堅調な市場を背景に、業績は拡大

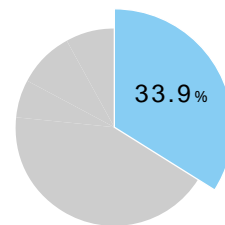
ウシオグループでは、半導体や液晶ディスプレイ、電子部品などエレクトロニクス製品製造用の「光源」や「光の装置」を幅広く提供しています。

当期(2007年3月期)は、液晶や半導体の製造プロセスで使用される各種ランプの交換需要が堅調でした。また、液晶パネルメーカー各社の増産にともない、液晶パネル貼り合わせ用紫外線硬化装置や、TAB露光装置なども堅調に推移しました。

ウシオグループの製品は、その品質と性能が高い評価を受け、半導体露光用光源、液晶パネル露光用光源で、いずれも世界シェア80%強、TAB露光装置では世界シェア100%を占めています。また、ランプ、レーザの次に期待される、次世代の新光源EUVの開発・研究にも国家プロジェクトメンバーの一員として取り組んでいます。



連結売上高に占める割合
(2007年3月期)



TAB露光装置



液晶パネル貼り合わせ用紫外線硬化装置

品質重視でシェアを拡大 - ギガフオン株式会社 -

コマツとのジョイントベンチャー(持株比率50%)として2000年に発足したギガフオン。会社設立以来、品質最優先の経営姿勢が高く評価され、主力の半導体露光用エキシマレーザの世界シェアは2007年3月期で30%を超え、売上・利益ともに計画を上回る業績を計上しました。また2007年2月には生産能力の増強も行い、今後の需要拡大にも対応しています。

エキシマレーザGT40A



【主なグループ会社】

ギガフオン株式会社

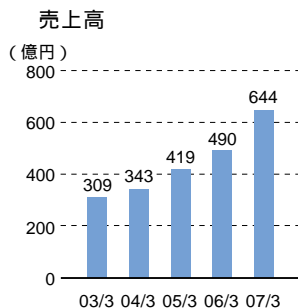
映像・画像分野

ビジネススキームが拡大し、圧倒的なシェアを獲得

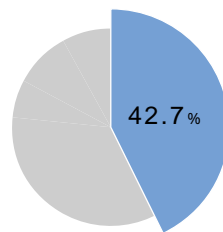
ウシオグループでは、「映像・画像事業」を重要戦略分野の一つとして捉えています。

シネマ分野では、北米におけるデジタル(フィルムレス)シネマ映写機の普及促進のためのビジネス・スキームが軌道にのり、2007年3月期は前年度の580台を大きく上回る約2,400台を出荷し、映画のデジタル化(フィルムレス化)をリードしています。また、今後は北米以外での普及拡大にも努めていきます。

2007年3月期の市場動向として、オフィスなどで使用されるデータプロジェクタの出荷台数は前年度比約20%増加し、ウシオ製ランプの出荷数も伸びを示しました。今後は価格競争の激しい市場において生産性の向上を図りつつ、新開発の高輝度ランプによって、マーケットシェアを拡大していきます。



連結売上高に占める割合
(2007年3月期)



デジタルシネマ
映写機
「CP2000」



データプロジェクタ用
高輝度放電ランプ

3Dで考古学の謎を解く - CDSジャパン -

2006年10月から2007年6月まで、東京と神戸で開催された「大英博物館ミイラと古代エジプト展」では、CTスキャンした2800年前のミイラの体を、CDSの3次元立体(3D)映像システムを使って再現。実際には見ることのできない迫力ある映像で来場者に感動を与えました。

© The trustees of the British Museum 2006.
All rights reserved

ミイラの3D映像



【主なグループ会社】

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.
株式会社ジーベックス
クリスティ・デジタル・システムズ・ジャパン

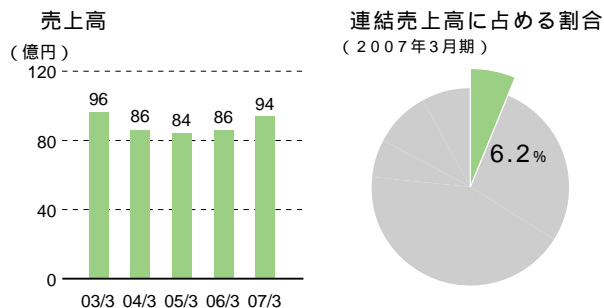
OA分野

高いシェアで安定した業績を維持

ウシオグループは、プリンタ、複写機、レーザープリンタ、ファクシミリなどのOA用光源を幅広く提供しています。

当期はプリンタや複写機のカラー化、多機能化が一段と進み、これに対応するランプ需要により堅調な売上を維持しました。複写機などの待機時間を短縮する、いわゆる立ち上がりの早いランプや、小型化を実現するランプにより、省エネ、省スペースというユーザーニーズに応えている点も評価されています。消費電力の少ない省エネタイプの読み取り用ランプは、大手OAメーカー全社に納入しており、世界シェア65%という高いシェアを占めています。現在、生産性の向上を目的に中国への生産移管を進めているほか、今後はBRICs など新市場の拡大が期待されます。

BRICs:ブラジル、ロシア、インド、中国などこれから発展が期待される市場



コピー機用希ガス蛍光ランプとランプユニット



トナー定着用ハロゲンランプ

メーカー各社の海外生産に対応 - ウシオ香港・ウシオ蘇州 -

ウシオグループでは、事務機器メーカー各社の海外生産に対応して、OA用ランプの海外での一貫生産を進めており、昨年6月には蘇州工場に新棟を建設し、将来の増産にも対応しています。2007年度には中国、フィリピンを中心に、海外生産をさらに重視していきます。これにより生産と販売を見据えた「全体最適化」の考えを元に、より効率的な生産体制を強化します。

蘇州工場



【主なグループ会社】

USHIO HONGKONG LTD.
USHIO(SUZHOU)CO., LTD

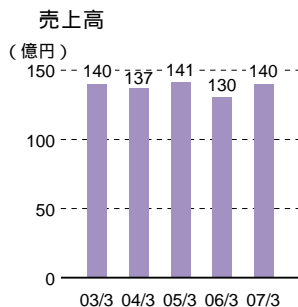
照明分野

高付加価値製品で新たな市場ニーズを開拓

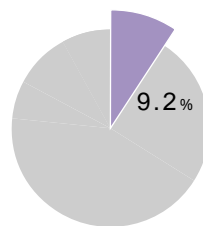
ウシオグループは、コンサートやイベントなどの照明システムや、店舗などに使われる商業用照明、自動車用のハロゲンランプや航空照明などの産業用照明まで、幅広い分野で照明用ランプを提供しています。

近年は環境に配慮した省エネ型の照明用ランプのニーズが高まり、より消費電力が少ないタイプのランプの開発を進めています。また照明デザイナーなどの専門家や建築の現場からは、デザイン性が高く、機能性に優れた照明設備に対する要望も増えており、より付加価値の高い新製品を提供しています。

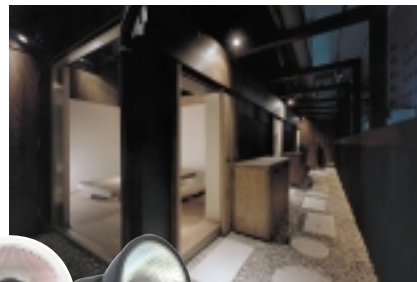
大規模な再開発やファッション性の高いオフィスビルなどの建設に伴い、今後もウシオグループの照明技術が活躍する場は広がっていくと期待されます。



連結売上高に占める割合
(2007年3月期)



照明効果を発揮するイベント



グレアカット型
ハロゲンランプ
「MRX.JR」

ユーザーニーズに応える製品開発 - ウシオライティング -

商品を美しく展示するため、ハロゲンランプなどを多用する百貨店などから、より消費電力が少なく、環境負荷を削減できるランプをという要望に応じて、光度を下げず、従来の設備を利用して使えるハロゲンランプを開発しました。

消費電力が少ないだけでなく、熱による負荷、空調負荷も削減し、CO₂削減にも効果を発揮しています。



スーパーラインIR

【主なグループ会社】

ウシオライティング株式会社
株式会社ウシオスペックス

「社会に選ばれる企業」を目指し、次の世代に向けた持続可能(サステナブル)経営をグローバルに展開するウシオグループ。その活動の一端をご紹介します。

安心して仕事ができる 環境・制度を整備しています。

～次世代育成支援を積極的に推進～

仕事と家庭の両立や次世代育成、高齢者雇用などを積極的に支援し、安心して仕事ができる環境・制度の充実をすすめています。

特に次世代育成支援に関しては、2005年度～2006年度の2年間の取り組みが認められ、東京労働局長より、次世代育成支援対策推進法に基づく認定を受けることができました。



「次世代育成支援対策推進法」・・・少子化対策の一環として制定された2015年3月31日までの時限立法。国・地方公共団体のほか、企業も計画的に次世代育成支援に取り組むことが求められ、301人以上の労働者を雇用する事業主に対して、「一般事業主行動計画」の策定、届出を義務付ける。

環境活動の成果を 経営に活かします。

～環境経営システム「USHIO ECO-SYS」を導入～

2007年度の環境データ収集分より、環境経営システム「USHIO ECO-SYS」を導入しました。これは、環境活動がもたらす経済効果を集計・評価し、環境経営に貢献するためのシステムです。

ウシオグループでは、環境活動によってもたらされる経済的・社会的プラス面を経営戦略に取り込み、サステナブルな社会を築き上げるため、企業の「環境への取り組みと経済活動の融合」を目指しています。



日本を代表して環境問題を アピールしました。

～第32回日本ASEAN経営者会議～

2006年11月、インドネシア・ジャカルタで開催された「第32回日本ASEAN経営者会議」で、社長の菅田史朗が日本を代表して『21世紀環境経営の提言-日本とアセアンの役割』と題したスピーチを行い、各国から幅広い共感と支持を得ました。

現在、全世界的に共通の企業経営課題の一つである環境問題を取り上げ、アセアンと日本の経済協力という枠組みの中で、企業経営者はそのように環境問題に取り組み、対応していくべきなのかをスピーチ。すべての企業経営者が環境対応経営を実践していくことを提言しました。



環境、社会性、人権の面から 評価されました。

～FTSE4Good Global Indexに4年連続選出～

社会的責任投資指標、FTSE4Good Indexシリーズの「Global Index」の対象銘柄に4年連続で選出されました。今後成長するとみられるSRI(社会的責任投資)市場の中で指導的な役割を果たすとされる企業が選出対象になり、当社の姿勢が評価されたものといえます。

第44期の事業概況

当期は、液晶関連業界におけるパネル価格の下落が続く中、パネルメーカー各社の生産能力増強などにより、リプレース（交換）向けランプの需要が増加しました。また、電子部品の開発、生産用として展開している投影露光装置も、市場拡大に伴い好調に推移しました。

データプロジェクタ用ランプにおいては、販売単価下落の影響を受けつつも、販売数量が比較的好調に推移し、売上は底堅い動きを示しました。

デジタルシネマ映写機事業では、北米を中心として展開している「デジタルシネマ普及促進プログラム」が着実に進行

し、デジタルシネマ映写機の出荷台数が大きく増加しました。

ウシオグループでは、将来に向けた新技術・新製品開発への積極的な投資を行なうとともに、生産性の向上や製造コストの低減、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充など、引き続き全グループを挙げて業績の向上に注力してまいります。

当連結会計年度の業績は、売上高1,514億9千5百万円、営業利益197億2千7百万円、経常利益251億4千5百万円、当期純利益165億5千3百万円をそれぞれ計上しました。

第45期の業績見通し

| | | | | | | | |
|-----|---------|------|-------|------|-------|-------|-------|
| 売上高 | 1,550億円 | 営業利益 | 210億円 | 経常利益 | 255億円 | 当期純利益 | 169億円 |
|-----|---------|------|-------|------|-------|-------|-------|

(連結ベース)

上記の業績見通しは、今後の状況変化によって、数字が異なる場合があることをご了承願います。

所在地別の業績

日本

液晶業界における旺盛な需要により、光学装置および露光用紫外線ランプのリプレース需要が拡大しました。また、半導体分野でも同様にリプレースランプの需要が堅調に推移し、売上高は、対前期比4.8%増の820億2千2百万円を計上しました。

北米

主に映像・画像事業において、映写機・光源および映像の付帯設備などのハードウェアに加え、ネットワーク・メンテナンスおよびその他関連サービスなど、保守や運用のソリューションビジネスを強化することにより、デジタルシネマ映写機他の需要が増加した結果、売上高は、対前期比40.9%増の555億1千1百万円を計上しました。

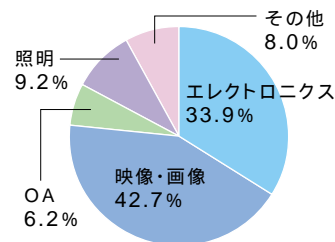
ヨーロッパ

一般照明用各種ランプ、シネマ映写機用クセノンランプなどの需要が堅調に推移し、売上高は、対前期比21.4%増の76億2千7百万円を計上いたしました。

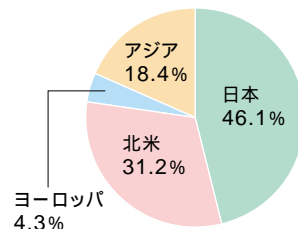
アジア

データプロジェクタ用ランプなどの需要が緩やかに回復するとともに、半導体および液晶分野での露光用紫外線ランプなどの需要が増加、OA機器用希ガス蛍光ランプやハ口ゲンランプも堅調に推移し、売上高は、対前期比9.4%増の327億5千万円を計上いたしました。

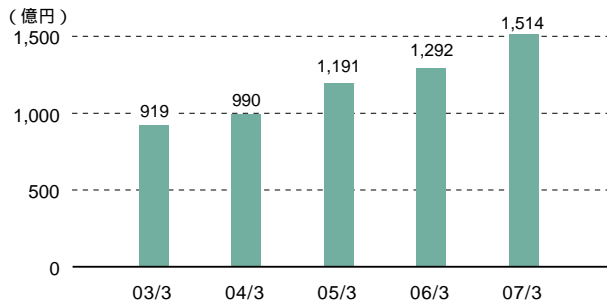
< 市場分野別売上高構成比 >



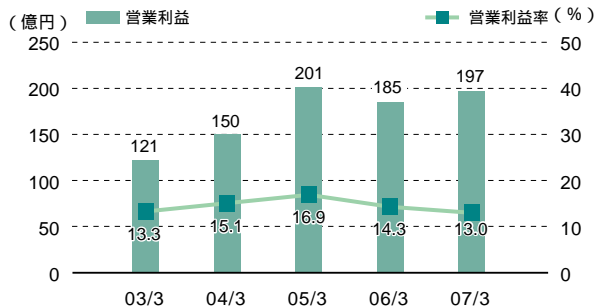
< 所在地別売上高構成比 >



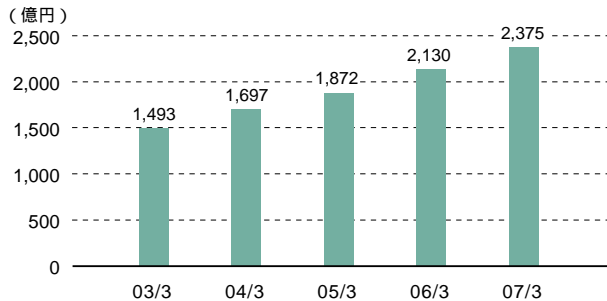
連結売上高



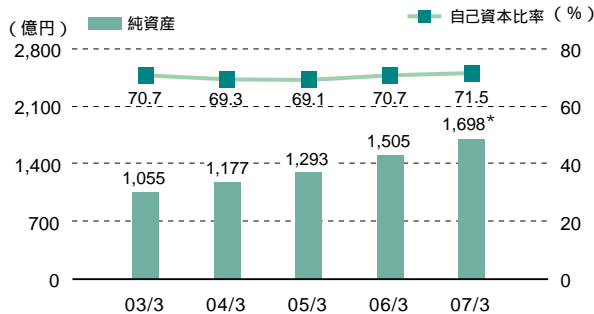
連結営業利益 / 営業利益率



連結総資産

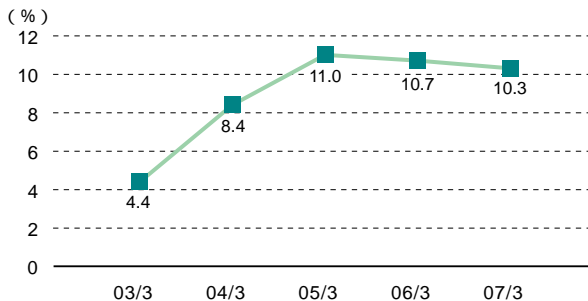


連結純資産 / 自己資本比率

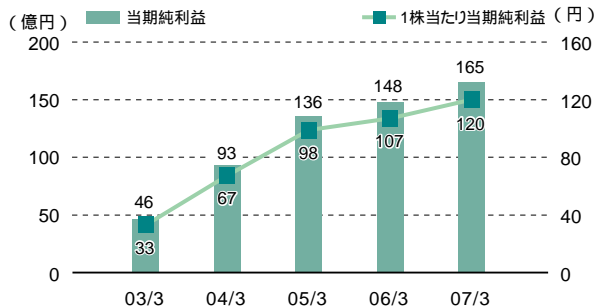


* 07/3の自己資本は、純資産から少数株主持分を控除した金額。

連結自己資本利益率(ROE)



連結当期純利益 / 1株当たり当期純利益



数字はすべて表示数値未満の位を切り捨てて記載しております。

貸借対照表

(単位:百万円)

| 科 目 | 第44期 (2007.3.31現在) | 第43期 (2006.3.31現在) | 科 目 | 第44期 (2007.3.31現在) | 第43期 (2006.3.31現在) |
|------------|-----------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|
| (資産の部) | | | (負債の部) | | |
| 流動資産 | 118,220 | 102,875 | 流動負債 | 45,076 | 41,006 |
| 現金および預金 | 29,195 | 22,182 | 支払手形および買掛金 | 21,220 | 17,417 |
| 受取手形および売掛金 | 42,900 | 39,793 | 短期借入金 | 6,865 | 10,435 |
| 有価証券 | 6,567 | 5,539 | その他 | 16,990 | 13,152 |
| たな卸資産 | 29,469 | 26,511 | 固定負債 | 21,706 | 20,746 |
| その他 | 10,088 | 8,848 | 長期借入金 | | 3,090 |
| 固定資産 | 119,299 | 110,151 | 繰延税金負債 | 19,496 | 15,447 |
| 有形固定資産 | 36,142 | 34,200 | その他 | 2,209 | 2,209 |
| 建物および構築物 | 14,782 | 14,140 | 負債合計 | 66,782 | 61,753 |
| 機械装置および運搬具 | 5,983 | 5,899 | 少数株主持分 | | 740 |
| 土地 | 8,805 | 8,785 | (資本の部) | | |
| その他 | 6,570 | 5,374 | 資本金 | | 19,556 |
| 無形固定資産 | 2,142 | 2,325 | 資本剰余金 | | 28,371 |
| 投資その他の資産 | 81,015 | 73,625 | 利益剰余金 | | 79,350 |
| 投資有価証券 | 78,479 | 70,220 | その他有価証券評価差額金 | | 24,611 |
| その他 | 2,535 | 3,404 | 為替換算調整勘定 | | 539 |
| 資産合計 | 237,520 | 213,027 | 自己株式 | | 1,895 |
| | | | 資本合計 | | 150,533 |
| | | | 負債、少数株主持分および資本合計 | | 213,027 |
| | | | (純資産の部) | | |
| | | | 株主資本 | 138,084 | |
| | | | 資本金 | 19,556 | |
| | | | 資本剰余金 | 28,371 | |
| | | | 利益剰余金 | 93,141 | |
| | | | 自己株式 | 2,984 | |
| | | | 評価・換算差額等 | 31,761 | |
| | | | その他有価証券評価差額金 | 30,594 | |
| | | | 繰延ヘッジ損益 | 42 | |
| | | | 為替換算調整勘定 | 1,124 | |
| | | | 少数株主持分 | 891 | |
| | | | 純資産合計 | 170,738 | |
| | | | 負債純資産合計 | 237,520 | |

当連結会計期間における連結貸借対照表の純資産の部については、連結財務諸表規則の改正に伴い、改正後の連結財務諸表等規則により作成しております。記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 第44期 | 第43期 |
|-------------|----------------------|----------------------|
| | (2006.4.1~2007.3.31) | (2005.4.1~2006.3.31) |
| 売上高 | 151,495 | 129,284 |
| 売上原価 | 103,848 | 85,025 |
| 売上総利益 | 47,647 | 44,258 |
| 販売費および一般管理費 | 27,919 | 25,757 |
| 営業利益 | 19,727 | 18,501 |
| 営業外収益 | 6,510 | 5,518 |
| 営業外費用 | 1,092 | 812 |
| 経常利益 | 25,145 | 23,207 |
| 特別利益 | 246 | 101 |
| 特別損失 | 218 | 138 |
| 税金等調整前当期純利益 | 25,174 | 23,170 |
| 法人税等 | 8,430 | 8,066 |
| 少数株主利益 | 190 | 209 |
| 当期純利益 | 16,553 | 14,895 |

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 第44期 | 第43期 |
|-----------------------|----------------------|----------------------|
| | (2006.4.1~2007.3.31) | (2005.4.1~2006.3.31) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 20,071 | 9,397 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 7,227 | 9,762 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 10,625 | 3,324 |
| 現金および現金同等物に係る換算差額 | 202 | 954 |
| 現金および現金同等物の増加額(又は減少額) | 2,421 | 2,734 |
| 現金および現金同等物の期首残高 | 22,701 | 25,436 |
| 現金および現金同等物の期末残高 | 25,122 | 22,701 |

剰余金計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 第43期 |
|-----------|----------------------|
| | (2005.4.1~2006.3.31) |
| (資本剰余金の部) | |
| 資本剰余金期首残高 | 28,371 |
| 資本剰余金期末残高 | 28,371 |
| (利益剰余金の部) | |
| 利益剰余金期首残高 | 67,219 |
| 利益剰余金増加高 | 14,895 |
| 当期純利益 | 14,895 |
| 利益剰余金減少高 | 2,763 |
| 配当金 | 2,763 |
| 利益剰余金期末残高 | 79,350 |

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

| 第44期 (2006.4.1~2007.3.31) | 株主資本 | | | | | 評価・換算差額等 | | | | 少数株主 持分 | 純資産 合計 |
|------------------------------|--------|-----------|-----------|-------|------------|------------------|-------------|--------------|----------------|------------|-----------|
| | 資本金 | 資本 剰余金 | 利益 剰余金 | 自己株式 | 株主資本 合計 | その他有価証券 評価差額金 | 繰延 ヘッジ損益 | 為替換算 調整勘定 | 評価・換算 差額等合計 | | |
| 2006.3.31 残高 | 19,556 | 28,371 | 79,350 | 1,895 | 125,382 | 24,611 | | 539 | 25,151 | 740 | 151,274 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当(注) | | | 2,762 | | 2,762 | | | | | | 2,762 |
| 当期純利益 | | | 16,553 | | 16,553 | | | | | | 16,533 |
| 自己株式の取得 | | | | 1,088 | 1,088 | | | | | | 1,088 |
| 株主資本以外の項目の 連結会計年度の変動額(純額) | | | | | | 5,982 | 42 | 585 | 6,610 | 151 | 6,762 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | | | 13,790 | 1,088 | 12,701 | 5,982 | 42 | 585 | 6,610 | 151 | 19,464 |
| 2007.3.31 残高 | 19,556 | 28,371 | 93,141 | 2,984 | 138,084 | 30,594 | 42 | 1,124 | 31,762 | 891 | 170,738 |

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (2007年3月31日現在)

発行済株式総数…………… 139,628,721株
株主数…………… 17,082名

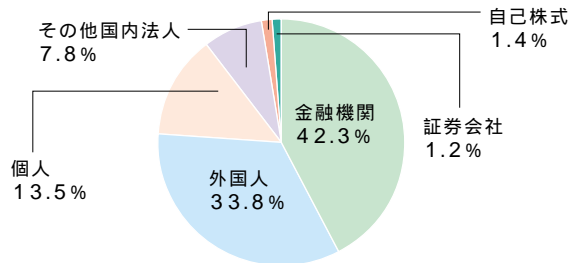
大株主の状況(200万株以上)

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|--|-------------|-------------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 11,845 | 8.48 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 6,870 | 4.92 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 6,587 | 4.71 |
| 朝日生命保険相互会社 | 4,477 | 3.20 |
| オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス | 4,470 | 3.20 |
| ニッセイ同和損害保険株式会社 | 3,964 | 2.83 |
| ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 株式会社りそな銀行 | 3,799 | 2.72 |
| 牛尾治朗 | 3,201 | 2.29 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (りそな信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口) | 3,200 | 2.29 |
| カセイ バンク オーディナリー アカウント | 2,554 | 1.82 |
| 指定単受託者三井アセット信託銀行株式会社1口 | 2,434 | 1.74 |
| 財団法人ウシオ育英文化財団 | 2,400 | 1.71 |

大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。

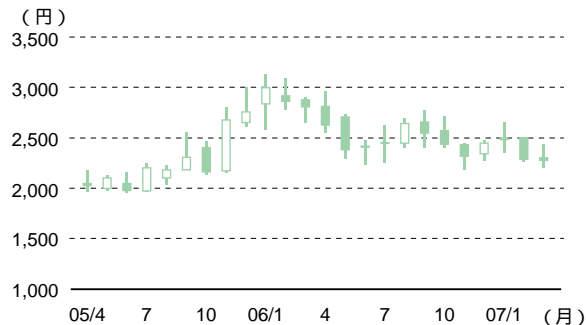
また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株式の分布状況

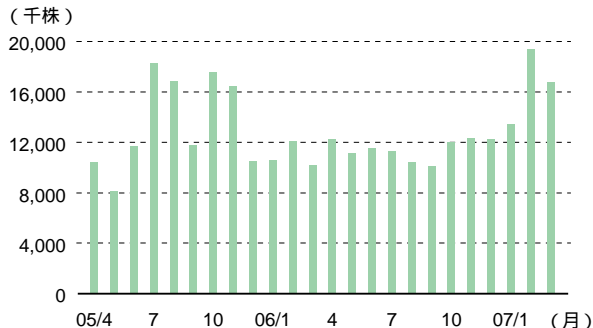


株価の動き / 株式売買高

株価の動き



株式売買高



設立 / 1964年3月

資本金 / 19,556,326,316円

役員(2007年6月28日現在)

| | |
|-----------|-------|
| 代表取締役会長 | 牛尾 治朗 |
| 代表取締役副会長 | 田中 昭洋 |
| 代表取締役社長 | 菅田 史朗 |
| 取締役 | 後藤 学 |
| 取締役 | 多木 正 |
| 取締役 | 大島 誠司 |
| 取締役 | 牛尾 志朗 |
| 取締役 | 多田龍太郎 |
| 取締役 | 伴野 裕明 |
| 常勤監査役 | 四分一 直 |
| 常勤監査役 | 中一 進 |
| 常勤監査役(社外) | 物江 理 |
| 監査役(社外) | 服部 秀一 |
| 監査役(社外) | 麻生 紘二 |

従業員数(2007年3月31日現在)

| | |
|---------|--------|
| ウシオ電機本体 | 1,656名 |
| 国内グループ計 | 489名 |
| 海外グループ計 | 2,637名 |
| 合計 | 4,782名 |

事業所一覧(2007年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社

| | |
|---------------|---------|
| 本社 | 東京都千代田区 |
| 播磨事業所 | 兵庫県姫路市 |
| 横浜事業所 | 横浜市青葉区 |
| 御殿場事業所 | 静岡県御殿場市 |
| 東京営業本部 | 東京都千代田区 |
| システムカンパニー営業部門 | 横浜市青葉区 |
| 大阪支店 | 大阪市淀川区 |

7月中旬に東京都千代田区に移転予定

海外グループ会社

開発・製造

<北米>

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.

<欧州>

BLV LICHT-UND VAKUUMTECHNIK GmbH

XTREME TECHNOLOGIES GmbH

<アジア>

USHIO HONG KONG LTD.

USHIO PHILIPPINES, INC.

USHIO(SUZHOU)CO., LTD.

TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

販売

<北米>

USHIO AMERICA, INC.

USHIO CANADA, INC.

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.

<欧州>

USHIO EUROPE B.V.

USHIO U.K., LTD.

USHIO DEUTSCHLAND GmbH

USHIO FRANCE S.A.R.L.

<アジア>

USHIO KOREA, INC.

USHIO TAIWAN, INC.

USHIO SINGAPORE PTE LTD.

USHIO SHANGHAI, INC.

USHIO LIGHTING (HONG KONG)CO.,LTD.

他10社

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社

兵庫ウシオライティング株式会社

群馬ウシオ電機株式会社

筑波ウシオ電機株式会社

株式会社ジーベックス

株式会社ウシオスペックス

ギガフオン株式会社

日本電子技術株式会社

他4社

【株主メモ】

| | |
|------------------|---|
| 決算期 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 |
| 利益配当金受領 株主確定日 | 3月31日 なお、中間配当制度は採用しておりません。 |
| 公告掲載URL | http://www.ushio.co.jp/kokoku やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |
| 株主名簿管理人 | 中央三井信託銀行株式会社 |
| 1単元の株式数 | 100株 |
| 株式銘柄コード | 6925 |

お問い合わせ先

〒168 0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

フリーダイヤル

0120 87 2031(24時間受付:自動音声案内)

ホームページ

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

 インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。

<http://www.ushio.co.jp>

発行:ウシオ電機株式会社 広報IR室

〒100 8150 東京都千代田区大手町2 6 1

TEL.03 3242 1815 FAX.03 3245 0589



この印刷物は、古紙配合率100%再生紙と、環境に優しい大豆インキを使用しています。